

平成 28 年度 第 1 回羽曳野市立図書館協議会会議録（要録）

日 時： 平成 28 年 7 月 28 日(木) 午後 2 時～午後 3 時 20 分

場 所： LIC はびきの 教育研究所 会議室

出席者：(委員) 岸下委員、菅谷委員、脇谷委員、南野委員、鈴木委員、嶋田委員、小澤委員、

荒川委員、上野委員、山田委員

(教育委員会) 石井生涯学習室長

(事務局) 岩城課長、奥野館長、安東課長補佐、岩佐主幹

欠席者： なし

傍聴者： なし

●開会

事務局より 交代による新任委員の紹介 鈴木委員、嶋田委員、山田委員

生涯学習室長 挨拶及び報告

- ・ 6 月にシステムを更新して稼働している
- ・ 近隣広域利用の一環で 7 月 1 日から太子町の住民が羽曳野市の図書館を利用できるようになった (相互に利用できるようになった)
- ・ 府下全域で広域利用の動きがある
- ・ 「ポケモンGO」の館内での動き・影響は今のところ大丈夫
- ・ 6 月の文庫連からの要望書を受け、市上層部と話をし、図書館からも人の要望を出している

●議事

事務局より、議事録の要録を WEB と中央図書館で公開することを報告

会長挨拶

議題 平成 27 年度事業活動報告について

事務局：(事前に送付している『平成 27 年度図書館業務活動報告書』の P. 1 の記述により活動概要を報告)

会長：何か質問などないか。

委員：図書の購入について、平均単価が前年より上がっているのはなぜか。

事務局：補助金を活用して参考業務に使える価格の高い図書を多く購入した。

委員：それらの貸出への影響はどうか。

事務局：貸出数は手元にないが、館内利用も含め利用されている。

委員：購入をやめる雑誌は図書館が決めているのか。

事務局：休刊によるもの。代わりの雑誌は利用者の普段の声を反映させながら選書会議で決定している。

委員：「たけのこくんブックボックス」とはどういうものか。

事務局：団体に対して、来館してもらうのではなく、幼稚園・保育園を中心に図書館で選んだ本をセットで届けて 1 学期単位を目途に配送貸出しているもの。

委員：幼稚園に行った時に見たことがある。よく利用されていたと思う。

会長：報告書以外でも意見などがあればどうぞ。

委員：小幼交流で図書館の影響はどうか。

委員：(幼稚園と小学校が隣接しているところに勤務しているが) 園児から学校図書館に行きたいという声があり、来てもらった。喜んでくれた。

委員：新聞について。モモプラザ(＝羽曳が丘図書館が入る施設)がこの4月に指定管理者が変わり新聞がなくなった。この他のコミセン(の図書館)も同じなのか。

事務局：3館同じ対応であり、昨年度までコミセンの指定管理者が購読していた新聞を図書館の資料とさせていただいていた。4月以降については、指定管理者が変更になり新聞購読が打ち切りになった。しかし、利用者の要望等を含め、図書館としても資料として新聞の必要性を認識し、7月から日本経済新聞の購読を始めた。また併せて、指定管理者はスポーツ紙の購読を始め、現在は図書館利用者を含めコミセン利用者全体に提供している。新聞の選定に関しては指定管理者が実施したアンケートを参考に決定した。

委員：ここ(＝報告書)に載っているのは紛らわしいのでは。

事務局：ご指摘のとおり紛らわしくなっているが、前指定管理者が図書館と共有利用し、その後寄贈していただいたので記載していた。

委員：(初めの挨拶のあとに) 広域化の話があった。羽曳野では身近なところに図書館があるが、これが徐々に無くなっていくようなことにならないか。

事務局：市長会及び町村長会で府下の広域で取り組める事業はないかという検討の中で図書館が出たようだ。先月に地域の図書館部会に話が降りてきたのが実状。今月初めにあった中・南河内ブロック会議の場において、住民サービスの向上を図る目的は賛成するが、府下全体住民のために始めたことが、逆に府下各公共図書館の地盤沈下になってはいけない、そういう意味で条件整備が必要と意見させてもらった。

委員：(報告書にある) 資料展示の特集(のテーマ)はどのように選んでいるのか。

事務局：職員が意見を出し合い、館長決裁している。季節的なものも多いが、割りと自由に提案してもらっている。

委員：広域化の件だが、大阪府で話し合いの場があるということか。

事務局：先ほどもお話したが、中・南河内ブロックの図書館部会として現場の声を反映するよう意見を出した。現在、近隣自治体とは広域相互利用しているので影響は大きくないかもしれない。羽曳野市の図書館は(羽曳野市民が他市で借りる点数より、近隣市民に) 貸出(をする点数)が多い。図書館の数を減らして閉館させている市もあるが、羽曳野市では広域利用を実施しても衰退させない。

委員：羽曳野市民以外が人気のある本を借りたら、市民に影響は出ないか。

事務局：広域利用者の予約は受付していない。

委員：広域利用ではこの他、延滞回収のリスクも出てくる。職員の負担にならないように考えておくべきだ。このほか、町村が、他市の図書館を使えば(自前で図書館を充実させなくても) いいということになりかねないので慎重であるべきと思う。

事務局：リスクなどがあるので、図書館現場の意見を聞いてもらうことを提案している。

委員：行事について。児童についてはよくやっていると思う。大人、働いている人も含めて、図書館が頼りになることがわかる行事についてはどう思うか。

事務局：児童は(将来) 図書館に帰ってくると思っている。大人について、一例だが、中央図書館で福袋事業を実施した際、大人の方、20代から30代の働く男性を意識した福袋も用意し、利用していただいた。

- 委員：図書館が成熟してくると大人の利用者が増えてくる。少子化もあり、大人になっても使える図書館を考えてほしい。
- 事務局：大人、働く層に足を向けてもらうのは難しい。課題と感じている。しかし、取組の中で少しずつではあるが、大人の男性の方も、貸出は少なくとも滞在する人が増えているように感じる。30代から40代の男性が単独で来館されるのは少ないが、子育て世代のお父さんがお子さんと来館されることが増えているので、そういう方々に対してアプローチの必要を感じている。またご提案等もいただきたい。
- 委員：高校生と話をしていたら、金・土は夜遅くまで開いていたらいいという声があった。中央は夜8時までやっているの、それ以外の図書館。また、夏休み中のクラブ活動に行く前の朝の時間帯とか。
- 事務局：中央の閉館時刻を夜9時から8時にしたときは利用状況などを検討して変更した。開館時間についてお声があることは認識した。が、現在の図書館の体力では厳しい。
- 委員：(幼稚園の現場について報告する。)園児はおはなしが大好きだ。これを保護者に啓発するのが難しい。子どもが同じ本を何度も読みたがることを理解してもらっていない。(おはなしの成果として)4歳児が素話を聴けるのはすごいと思った。
- 委員：子どもがいろんな本を通して、進路選択の一助になってくれたらいい。図書館の役割としても大事かと思う。
- 委員：学校図書館の取り組みが20年近くになると思う。近頃アクティブラーニング、子どもが進んで学ぶことが大事だと言われている。学校図書館の本も充実してきているが、ネットワークで(市立図書館から)援助があるのはいい。
- 委員：障がい者サービスに協力している。リスナーさん(=録音図書利用者)が高齢となり、利用者が減少している。多くの人に聴いてほしいと思う。(中央図書館の)録音室は交代で常に使っている。
- 朗読はやりたいがボランティア活動はちょっと・・・という人が多い。朗読ボランティア入門講座の受付のときにボランティア活動について説明しておいてもらえたらと思う。
- 事務局：講座は、まず気軽に多くの方に受けてもらうよう心掛け勧めているが、ボランティア団体の周知についても工夫していく。
- 委員：文庫連で毎年一回、講師に来てもらって講演会をしている。子どもの育ちが対象になるが、図書館には自分たちの意見を尊重してもらって感謝している。この9月に脳科学と子どもの育ちの講演会を行う。
- 事務局：親御さんに働きかけることも児童サービスと考えている。
- 委員：学校図書館に関わっているが家庭の役割が大きいと思う。幼稚園・保育園で読んだことがある本を学校図書館で読むようにせがまれることもある。親御さんが毎週でも市立図書館に連れて行ってくれたらいいのと思う。
- 「図書館を使った調べる学習コンクール」の過去の優秀賞を借りる方法があると思う。先生方もイメージしやすく、見せてもらえたらありがたい。
- 事務局：見ていただけます。
- 会長：ひととおりの意見をいただきました。本日はこれで閉会します。

●閉会